

留学先：Clemson University

氏名： 吉田 莉久

【はじめに】

クレムソン大学での8ヶ月間の留学生活も遂に終わりを迎えました。特に最後の1ヶ月は学期末ということもあり、テストや課題に追われ、本当にあつという間に過ぎてしまいました。ただ、この忙しい中でも、友人達が私のためにご飯や遊びに連れて行ってくれたりしたおかげで、なんとか最後の1ヶ月を乗り越えることが出来ました。今回は、今学期、そして留学生生活を終えてのことについて報告していきます。



【今学期を終えて】



以前の報告書でも述べたように、今学期は自分にとって挑戦の学期でした。先学期は12単位を履修したのに対し、今学期は19単位履修したため、本当に毎日勉強に追われ、正直ストレスに押しつぶされそうになったこともありました。しかし、最終的に全ての授業を落とすことなく無事に通ることが出来たことは、日本では味わえない達成感と自分の英語力への自信に繋がりました。

2つのコミュニケーションの授業では、今学期だけで合わせて10個のスピーチをこなしました。学期の初めは、ネイティブスピーカーの前でスピーチすることは本当に緊張し、正直辛かったです。しかし授業の中で、スピーチをする際のポイントを専門的に学ぶことで、そして何度もスピーチをすることで、今では人前で話すことに全く抵抗がなくなりました。将来、英語教員になれば生徒の前で英語を使うことが多いため、このコミュニケーションの授業は将来のために役に立つ授業でした。また、言語学の授業は、私に不足している英語についての専門的な知識を増やしてくれました。教育の授業では、最終プロジェクトとして実際に10個分の授業プランをグループで作りました。私のグループはサウスカロライナ州の教育スタンダードに基づいて小学2年生に向けての社会科の授業を作りました。分からないことだらけで大変でしたが、グループメンバーに助けられ、なんとか授業プランを完成させることが出来ました。もう一つの教育の授業では、青年期について学び、将来教員になった際の生徒を見る観点を養うことが出来ました。例え



ば、生物学的に女子の方が男子より身体的発達早く、かつ発達速度には個人差があり、その個人差は各自の認知的な面にも関わっているということです。女子で発達の早い人は男子に比べて、精神的にマイナスな影響を多く受けがちにあるため、教師はより注意して見ておくことが必要になる、など教員になった時に役に立つ知識を得ることが出来ました。人類学の授業では、正直テストなどは良い結果を残せませんでした。レポート課題に時間をかけ良い点数を取ることが出来ました。自分が全く知らないことを英語で学ぶことは本当に難しかったですが、その分理解できた時は楽しく、また特にジェンダーのことなど新しい視点を得ることが出来ました。

今学期を終えて思うことは、迷った末に沢山の授業を取ったことは本当に良かったということです。どの授業も様々な点で私を成長させてくれましたし、そこでの学びは将来自分をきっと助けてくれると思います。もしこの中の授業 1 つでも取っていなければ、取っておけば良かったと後悔していたと思います。授業について 1 つ後悔があるとすれば、グループワークに積極的に参加出来なかったことです。学期末はグループで活動することが多く、私は 3 つのグループプロジェクトがありました。しかし、どうしても他の学生に比べると、話についていけなかったり、何をすればよいか分からないことが多々あり、悔しい思いをしました。しかし、同時に自分はまだまだ努力が必要だとも気付くことが出来たので、今後も自身の英語力を伸ばすことが出来るように取り組みたいです。

【友人との別れ】

最後の 1 ヶ月は友人との別れの時期でもありました。クレムソンでの生活を一緒に過ごしてきた友人との別れは本当に辛かったです。特に私は、8月にクレムソンに来たときは自身の英語力の低さのせいで、コミュニケーションがうまく取れず、友人をなかなか作る事が出来ませんでした。そのため、初めの 2 週間は友人もいなく、辛い時期を過ごしました。しかし、クラブ活動に参加することで、クレムソンで多くの友人を作ることが出来ました。彼らと普段一緒に遊んだりご飯を食べたりすることは本当に楽しかったですし、それだけでなく授業などでも私がつまずいていると助けてくれました。帰国する際には、朝の 5 時にも関わらず空港まで見送りに来てくれて、本当に良い友達を持ったなど涙が止まりませんでした。今年、または来年度には、友人のうちの何人かが日本に留学や遊びに来るので、その時は日本で会って思いっきりもてなしたいなと思います。

【留学生活を終えて】

正直、留学生活が終わったという実感はまだありません。またすぐにアメリカに帰れるのではないかとも思っています。ただ、実際に私は 7 月に控えた教員採用試験のためにすぐに勉強を始める必要があります。留学生活中どのように行動するかはもちろん大事ですが、それ以上に留学から帰ってきて、そこで学んだり経験したりしたことを日本でどのように生かすかがより大切だと考えています。私の場合は、教員になる際に自分の経験をどのよう

に生かせるか今後考え、そして教員採用試験に臨むつもりです。加えて、自身の語学力を図るために TOEIC や TOEFL、英語能力検定試験といったものを積極的に受けようと思います。具体的な目標としては TOEIC950、TOEFL90、英語能力検定試験 1 級の取得に取り組みます。また、学内の留学生と積極的に触れ合うよう心掛けたいとも思います。特に留学の経験上、彼らも何かしら不安や分からないこともあると思うため、少しでもサポートしていきたいです。

【日常生活】

月の初めには international festival がクレムソン大学で開催されていたため、友人と参加しました。全 30 か国以上の様々な国の料理や文化を学ぶ良い機会です。家族連れで来ている人も多く見られました。



期末テスト前には、クレムソン大学で働いている日本人の先生のご自宅にお邪魔させて頂き、食事をご馳走になりました。この留学生活の中で何度も食事に誘ってもらい、その他の面でも助けてもらい、本当に感謝しています。

4月中旬には、私が所属する ASA(Asian Students Association) が主催する semi-formal というイベントに参加しました。ここでは、全員 formal な恰好をして、ダンスなどの余興を見ながら食事を楽しみました。イベント途中ではサプライズでみんなからプレゼントをもらい、思わず涙ぐんでしまいました。



冒頭でも述べたように、多くの友人とご飯にも行きました。本当はもっと写真を載せたいのですが、ここでは一部の写真を載せます。

以上が 4 月の報告内容です。月例報告書を読んで頂きありがとうございました。